

48 鴨政雄《十字文大皿》

一点

昭和七年（一九三二） 銀、鍛造  
径三八・六 高五・八

昭和七年（一九三二）の第十三回帝展に「大皿」の作品名で出品された作品。銀板を鋳起で成形し、縁の部分をはなれ形の連続模様で切り透かし、見込みに彫りつけられた十字文が印象的である。

作者の鴨政雄（一九〇六～二〇〇〇）は香川県生まれ。大正十四年（一九二五）に東京美術学校に入学し、在学中の昭和二年、北原千鹿を中心に

結成された団体である工人社の創立より同人として参加しており、発表活動の出發時より、新しい表現を意識していた作家である。やはり在学中の昭和五年に第十一回帝展初入選、その後も帝展に出品を続け、戦後は日展で活動を続け、現代工芸美術家協会にも参加している。

49 溝口安太良《鍍銀香炉》

一点

昭和三年（一九二八） ブロンズ、鑄造  
径一四・〇 高一四・三

鑄造原型に用いる蠟を巧みに扱うことで筋目の透かしを付け、蠟の軟らかな素材感そのものが強く示された銅製の香炉である。表面を鍍銀で仕上げている。密教法具に見られる火舎香炉の形をもとにしながらも、そうした伝統から離れた新たな造形を試みている。側面には陰鑄銘で「龍文堂安太良 昭和戊辰 五月」、底裏に陽鑄銘で「龍文堂安太良」とある。作者の溝口安太良（一九〇〇～六八）は、京都で代々、鉄瓶や煎茶器などの茶道具を鑄物で製作してきた龍文堂の八代目安之介にあたる。大正十三年（一九二四）に東京美術学校を卒業し、昭和二年（一九三七年）第八回帝展に入選、翌年には京都の金工の振興を目指して金芸会を創立して春と秋に展覧会を開催するなど、精力的に活動を展開していた時期の作品である。

- ・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

1920s-30s モダン・エイジ — 光と影の造型美

三の丸尚蔵館展覧会図録 No. 70

編集 宮内庁三の丸尚蔵館

制作 株式会社 東京美術

翻訳 黒川廣子

発行 宮内庁

平成二十七年九月十二日発行

© 2015, The Museum of the Imperial Collections, Sanmonmaru Shozokan